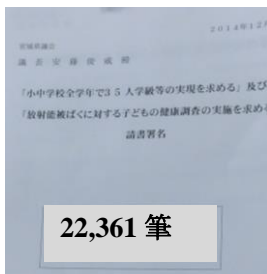




## 「県独自に35人学級を！」12月5日 22,361筆の署名を添えて県議会に請願

12月5日、宮教組は「ゆきとどいた教育をすすめる宮城の会」(太田直道代表)の一員として、県議会議長に「小中学校全学年で35人学級等の実現を求める請願署名」を提出しました。署名は宮教組13,143筆(PTA・学校分込)を含む22,361筆を提出。瀬成田宮教組委員長は「宮城県は少人数学級が東北で最も遅れている。県独自に予算を付け、すぐにでも実現してほしい」と安藤俊威議長に訴えました。要請署名は12月議会で審議され、継続扱いとなりました。



22,361筆

請願には、写真左から民主党の坂下賢県議、共産党の遠藤いく子県議、社民党の岸田清実県議の3名が紹介議員として同席しました。



県議会議長に提出する太田代表

### 宮教組は212分会から 10,301筆を集約

保護者や知人、友人に声をかけ、一人で200筆以上集めた組合員も多数いました。

■分会以外からも109の学校、12校のPTAから合計2,842筆の署名が寄せられました。

各学校やPTAの皆様のご協力に感謝します。

昨秋、財務省は40人学級に戻す動きを見せましたが、1月14日の2015年度の政府予算案の閣議決定まで予断を許しません。宮教組が11月に取り組んだ職場要求決議では「手のかかる子どもが増えています。40人学級なんてありえません。」「子どもたちにお金を掛けない国に未来があるのか」といった声が寄せられました。

「被災地こそ35人学級を」の声を訴え続けていきましょう。



生協前署名は県内延べ47か所で実施。中でも仙台支部は20回実施し、たくさんの署名を集めました。



フォーラス前でも計7回実施しました。

★国会宛署名(署名の右半分)は、できるだけ1月13日までに届け下さい。

■今回、合計60近い幼稚園、保育所からも署名が集まりました。また、学校以外では、みやぎ生協労組から4,975筆、新日本婦人の会から1,039筆など、たくさんの団体から署名をいただきました。署名の右半分の「教育予算の増額等を求める」請願署名は2月に国会へ提出します。